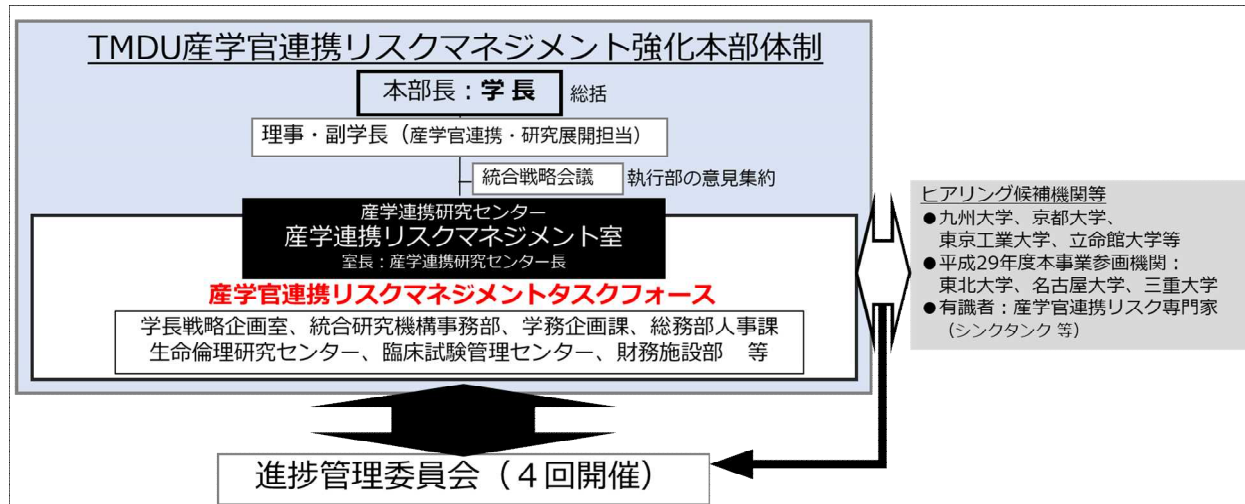


産学官連携リスクマネジメントモデル事業(1)

実施体制

- (1) 新たなリスクの分析と把握
- (2) リスク情報を的確に把握するための基盤づくり

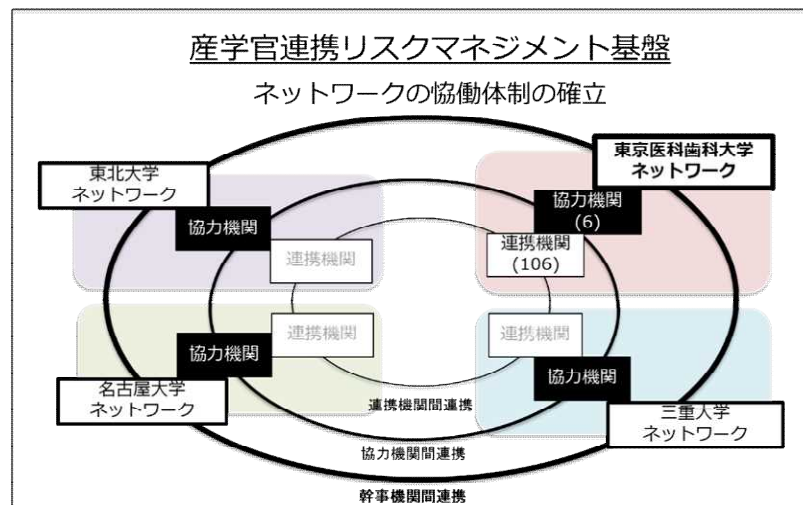


ヒアリング候補機関等

- 九州大学、京都大学、東京工業大学、立命館大学等
- 平成29年度本事業参画機関：東北大学、名古屋大学、三重大学
- 有識者：産学官連携リスク専門家(シンクタンク等)

- ① リスクマップ作成にあたっての考え方
- ② 大学の特徴に応じたリスクマップモデルの作成
- ③ 産学官連携リスクマネジメント項目の抽出
- ④ リスク情報とリスク要因との関係性についての分析マネジメント手法を構築
- ⑤ 構築したマネジメント手法の検証とモデル化
- ⑥ モデルの普及について
- ⑦ その他必要な事項

(3) モデルの全国的な普及



平成29年度までに構築した**幹事機関**（東北大学・名古屋大学・三重大学・本学）間の**連携**を核に、**幹事機関毎に形成されているネットワーク**（幹事機関にそれぞれ所属している協力機関）**同士の横連携**を図っていく。

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(2)

(1)新たなリスクの分析と把握

1)リスクマップの作成

事業内容

**リスクマップ作成に関する
考え方・方向性の検討
(リスクマップの意義・効果など)**

リスク要因の抽出

**リスク要因の精査・整理
(カテゴリ化、定義づけ)**

産学官連携リスクマネジメント
タスクフォースを組織し、
第1回進捗管理委員会を開催する。
有識者らの意見を踏まえて考え方
をまとめる。

様々な部署の教職員から、
産学官連携活動に関するリスク要因
のみならず、
全学のリスク要因の抽出を行う。

部署間の齟齬が生じないように、
各リスク要因への定義付けを、
なるべく具体事例を加えながら行う。

リスク要因の評価

本学の関係教職員・外部有識者の意見踏まえ
以下の3つの観点について4段階で評価

影響度：

発生した場合に本学にどのくらい影響があるか？

発生可能性：

発生の可能性はどれくらいあるか？

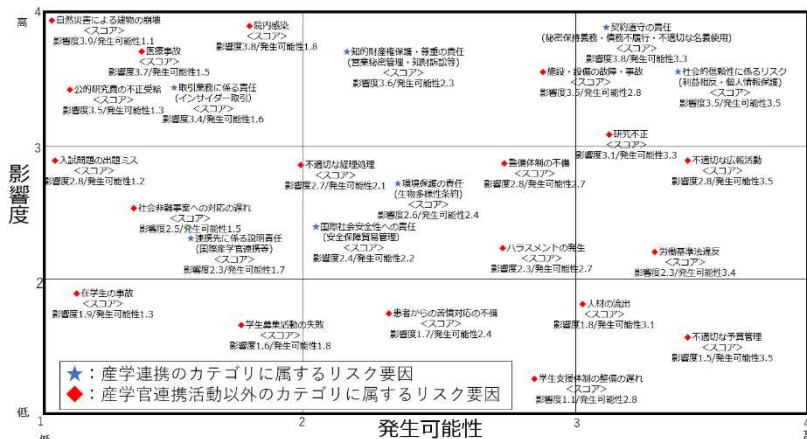
リスク対応状況：

現時点において対応はどれくらいされているか？

カテゴリ	リスク要因	定義・事例	評価値											
			影響度				発生可能性				リスク対応状況			
			極めて小さい	小さい	大きい	極めて大きい	極めて小さい	起こりづらい	起こりやすい	極めて起こりやすい	全くできていない	できていない	部分的にできている	十分にできている
産学連携	知的財産保護 ・専売の責任	他者の知的財産権を侵害する。または、 他者の営業秘密を漏洩してしまう。	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
	契約遵守の責任	秘密保持義務の違反等の債務の不履行が 発生。又は、実用化した製品の広告等 において、不適切に本学の名称が使用され る。	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
	社会的信頼性に 係るリスク	利益相反マネジメントの不徹底、個人情 報の漏洩により社会からの信頼を喪失す る。	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4

リスク要因のリスクマップへの配置

マップは、縦軸を影響度、横軸を発生可能性とする。
影響度/発生可能性のスコアは、
各種調査結果より得られた4段階評価の平均値とする。
全てのリスク要因をスコアに基づきマップへ配置する。

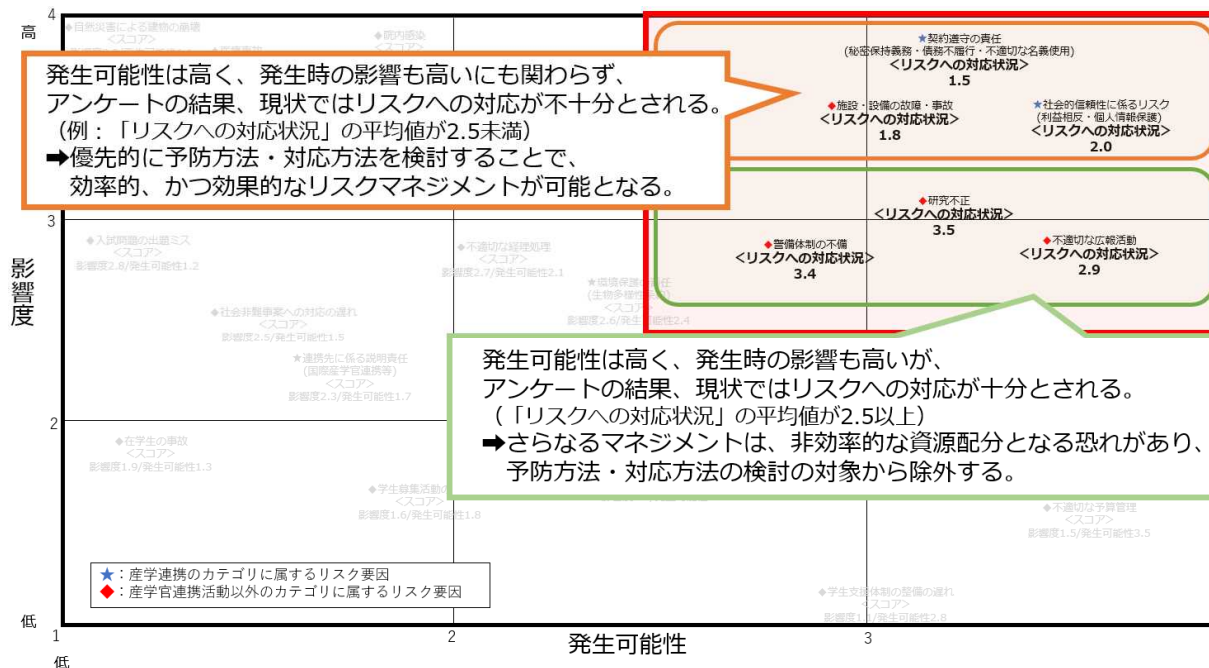


産学官連携リスクマネジメントモデル事業(3)

事業内容

2)優先的に対応すべきリスク要因の選択/計画の作成

優先的に対応すべきリスク要因は、**影響度、発生可能性が共に高く、リスクマップの右上に配置されたリスク要因**であることが考えられる。
しかし、既に対策が十分であれば、さらなるマネジメントは資源の過剰配分となる。



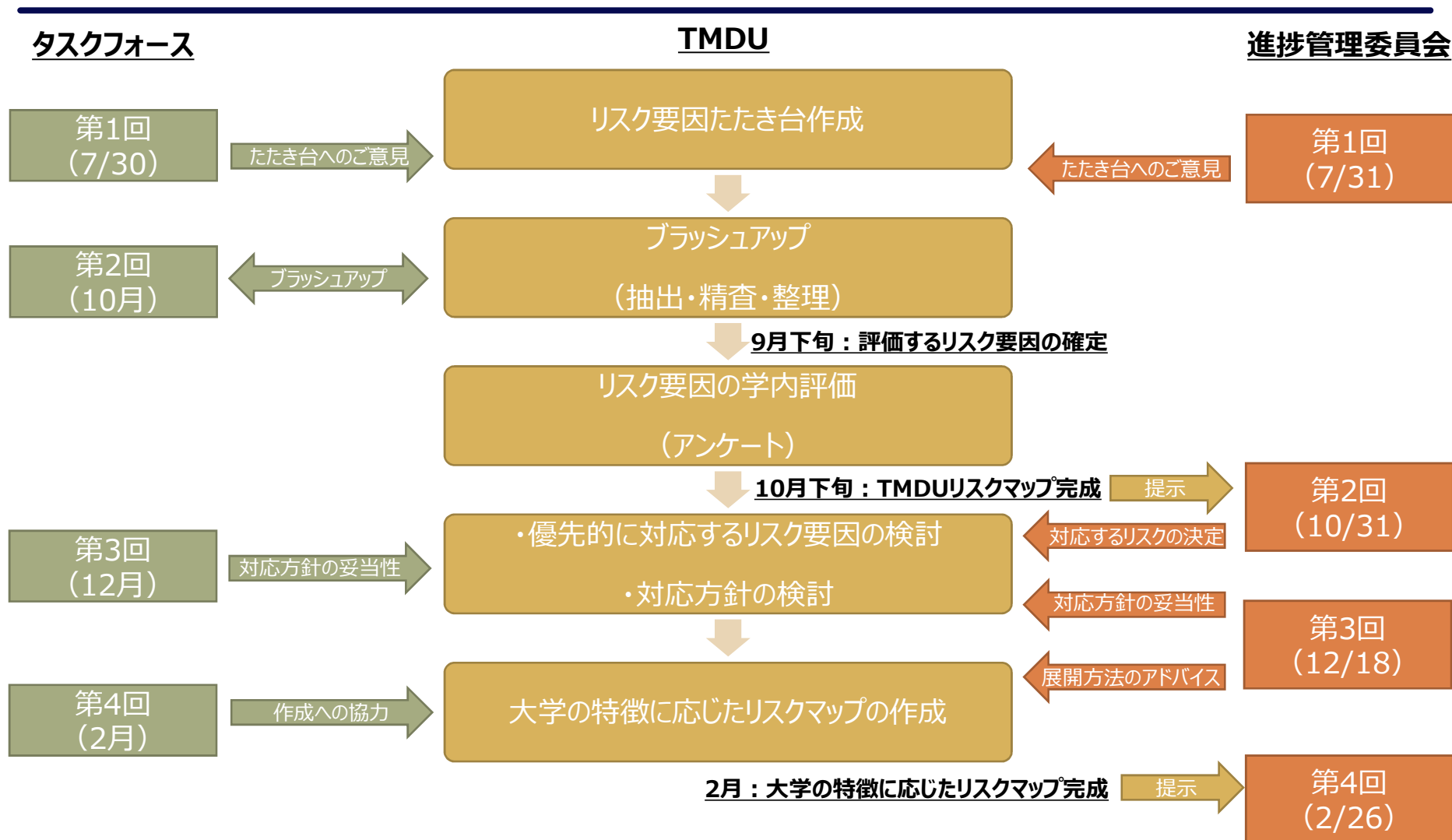
影響度、発生可能性がともに高いリスク要因(マップ右上)のうち、アンケート等で「リスクへの対応状況」が不十分と判断された要因を**優先的に対応すべきリスク要因**とする予定。

- **優先的に対応すべきリスク要因**について、TFでの検討結果に基づき、産学連携リスクマネジメント室を責任部署として対応計画書を作成する。
 <対応計画書>: **対応するリスク要因、対応にあたり確認すべき事項、現時点の対応状況マネジメント手法/実施期間、リソース(担当部署/費用)**
- 構築したモデル例は、業務手順書の形にまとめHP等で公開する。

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(4)

スケジュール：新たなリスクの分析と把握

事業内容

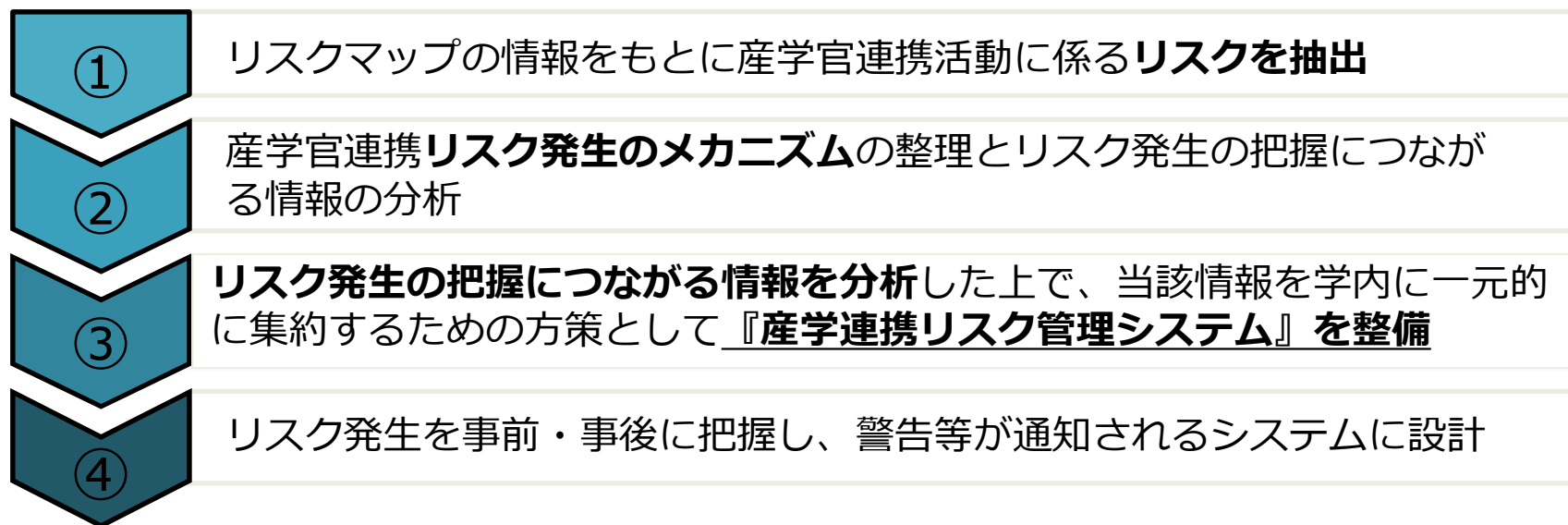


産学官連携リスクマネジメントモデル事業(5)

事業内容

(2) リスク情報を的確に把握するための基盤づくり

産学官連携リスク発生のメカニズムを整理した上、リスク情報を正確に把握するために、学内に散逸する情報の中から必要な情報を的確に抽出する方策と、当該情報をリスク回避に用いるための基盤づくりを行う。

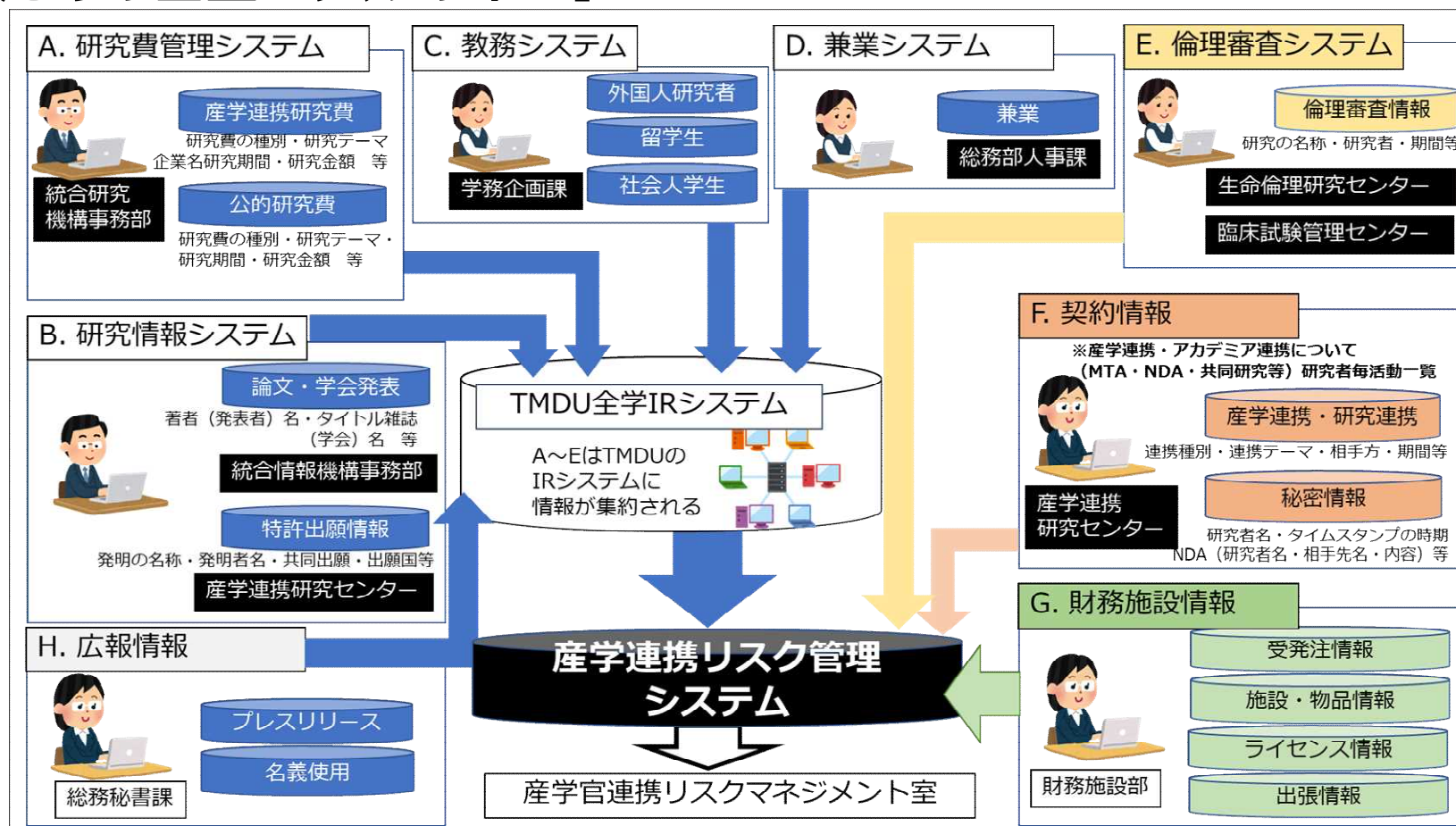


『産学連携リスク管理システム』を用いた、リスクマネジメント実施方策の検討
『産学連携リスク管理システム』への情報の集約方法、各種情報管理部署の設定、リスク管理の在り方等は、リスクマップ作成時のヒアリングで協力を求める他大学や、外部有識者にも協力を求め、他大学でも導入可能な管理システムとなるよう留意する。

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(6)

事業内容

【リスク情報を的確に把握しマネジメントを実施するための基盤モデルの確立】



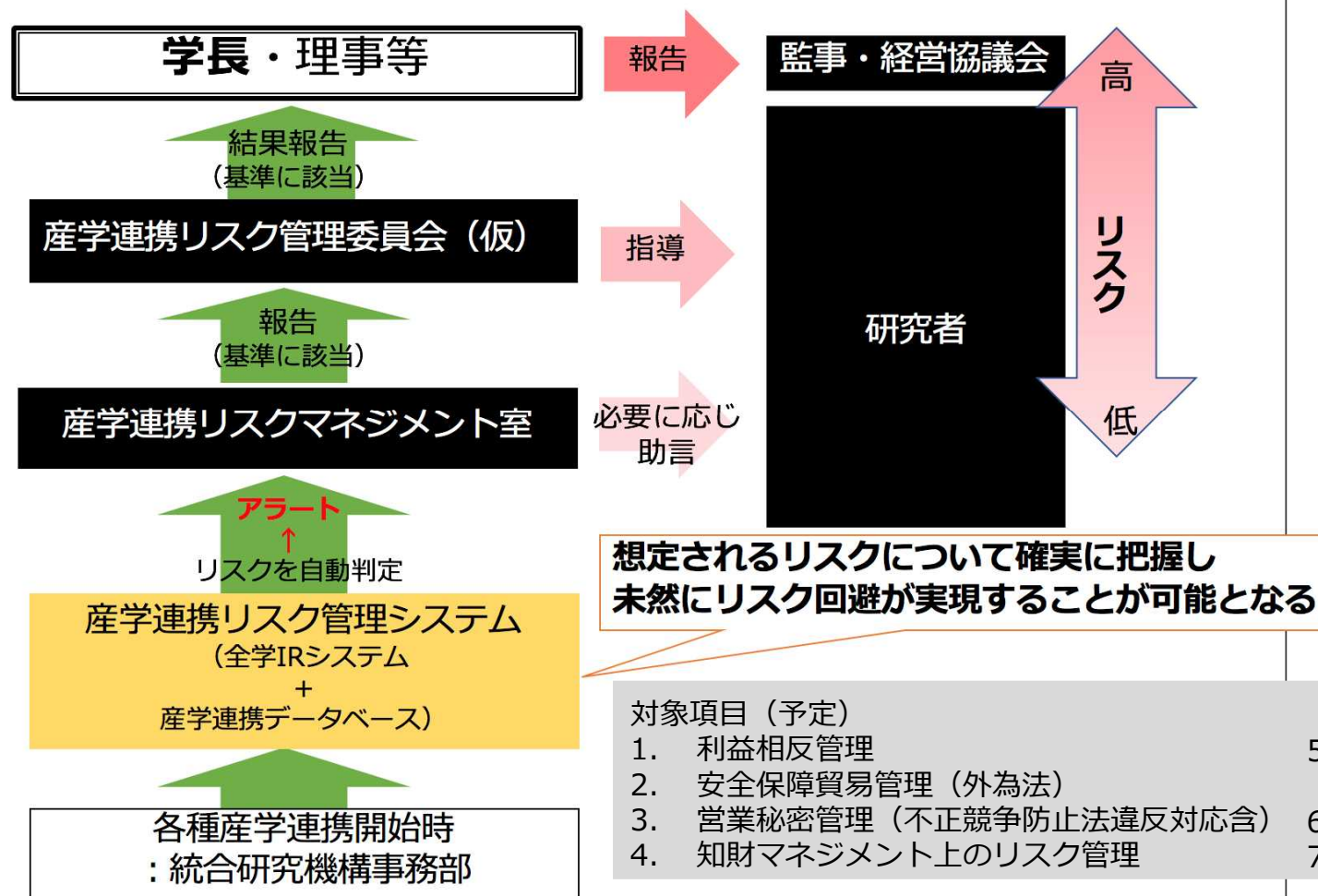
- リスク発生判断のベースとなる情報やリスク発生に関わる情報等を用いて **リスク発生予測を立て、アラーム出すシステム設計**を目指す。
- 本年度は考え方、在り方の検討・整理を行う。

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(7)

【産学連携リスク管理システムによる 産学官連携リスクマネジメントの方法】

事業内容

産学連携データシステムによる産学連携リスクマネジメントの方法 (案)

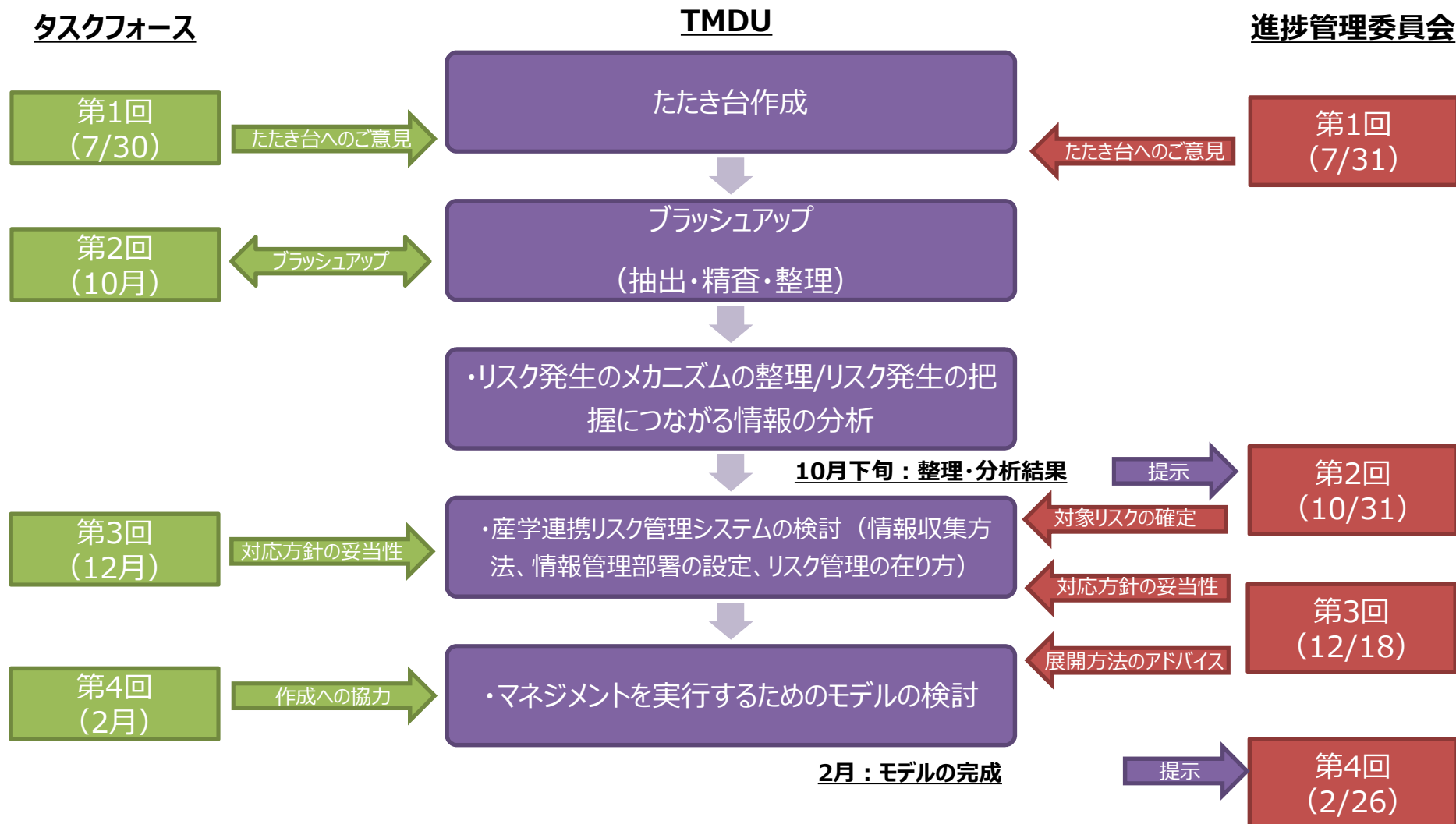


- システムにはリスク毎に必要な助言や指導の内容も組込んでおく。
- 構築したモデル例は、業務手順書の形にまとめHP等で公開する。

産学官連携リスクマネジメントモデル事業(8)

スケジュール：リスク情報を的確に把握するための 基盤づくり

事業内容



産学官連携リスクマネジメントモデル事業(9)

事業内容

(3)モデルの全国的な普及

平成27～29年度にかけて本学、東北大学にて構築・見直しを行った利益相反マネジメントモデル、名古屋大学、三重大学にて構築・見直しを行った技術流出マネジメントモデル、4機関がそれぞれ検討を行った新たなリスクに対する考え方について、各機関で平成29年度までに協力機関と構築したネットワークを利用し、平成30年度も引き続き全国の大学への普及を行う。モデルの普及とともに研究者への啓発に取り組む。

ブロック	東海・近畿・四国 ブロック	東北・北陸・北関東 ブロック	中国・九州・沖縄 ブロック	北海道・関東（北関東を除く）・甲信越 ブロック
開催日程	9月25日（火）	11月5日（月）	12月20日（木）	1月23日（水）
開催場所	ウインクあいち	金沢勤労者プラザ	JR博多シティ	東京医科歯科大学

※3月に全国シンポジウム開催予定